



Title	ソロン語の終助詞について
Author(s)	バイカル
Citation	北方言語研究, 14, 313-330
Issue Date	2024-03-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92078
Type	bulletin (article)
File Information	17_Baigala.pdf



[Instructions for use](#)

[資料・研究ノート]

ソロン語の終助詞について

バイカル

(東京外国語大学大学院博士課程)

キーワード：ソロン語、記述言語学、終助詞

0. はじめに

本稿ではソロン語¹の終助詞について考察する。ここで扱う終助詞とは、以下の例 (1) の下線部に見るように述語の後ろに置かれ、文の叙述内容に様々なモーダル的意味を与える接語²である。ソロン語の終助詞に関する研究は豊富とは言えない。本稿の目的は、ソロン語の終助詞のカテゴリーを認定し、ソロン語の終助詞の分類を行い、それらの意味・用法を考察することである。

- (1) uxur-nii nanda-wa uxun-ǰi munə-gəə-ǰi-rən=ǰə.
牛-GEN 革-ACC 牛乳-INS 腐る-CAUS-PROG-IND.PRS.3=ǰA³

「牛の革を牛乳で腐らせる。」

(風間 2018b: 212)

本稿における例文番号・グロス及び下線などの文字飾りは、特に断りのない限り筆者によるものである。例文の日本語訳は断りのない限り原典によるものである。本稿での形態や例文を示すにあたっては風間 (2018a) の音素表記に従う。例文の一部は筆者⁴による作例であり、母語話者⁵の確認をもらったうえ提示する。

1. 先行研究

ソロン語の終助詞に関する研究は十分とは言えない。終助詞は、従来のソロン語研究における品詞分類では語気詞 (胡・朝克 (1986)、朝克 (1995)) 及び付属語 (風間 (2010)) と呼ばれる範疇に含められている。本稿では代表的なものとして 1.1.節で胡・朝克 (1986)、1.2.節で風間 (2010) の記述を取り上げる。1.3.節で先行研究の問題点を述べる。なお、Baek

¹ ソロン語は中国内蒙古自治区のホロンバイル地方で話されているツングース諸語の言語である。ソロン語はモンゴル語 (及びダグル語) の著しい影響を受けてきた。中国では鄂温克族と呼ばれているが、この鄂温克族はソロン人以外にロシア領に分布するエウエンキ語の方言であるツングース・エウエンキ、ヤクート・エウエンキを含んでいる。鄂温克族の人口は 30000 人ぐらいで、そのうちのほとんどはソロン人である。その話者数の把握は難しいが、筆者の感覚では人口の半分以下である。

² 接語とは、統語論上では単独の語として扱われるものの、音韻的には他の語に依存している拘束形態素のことである (長屋 2015: 133)。

³ 本稿では直接の研究対象であるため、終助詞のグロスはその形態をもってグロスとする。なお、大文字は母音調和による異形態があることを示す。=ǰA は =ja, =jə の異形態があり、本稿で扱う文献に =jaa, =jəə の形態もみられるが、本稿では便宜上 =ǰA で代表させる。

⁴ 筆者は 1993 年鄂温克族自治旗伊敏ソム生まれのソロン語母語話者である。

⁵ 協力者は 1963 年鄂温克族自治旗伊敏ソム生まれのソロン語母語話者 N 氏である。

(2023) はソロン語の文法概略であり、本稿で調査対象とする終助詞に関して記述していないので取り上げない。

1.1. 胡・朝克 (1986)

胡・朝克 (1986) はソロン語の文法書であり、「語気詞」の一部は終助詞であると考えられる。そこで胡・朝克 (1986: 106-109) が「語気詞」として扱う形式を以下に列挙する。例文の日本語訳は筆者によるものである。

1.1.1. 叙述を意味する語気詞

① =gəə⁶ 穏やかな叙述や独り言を表す。

- (2) ajja əsi bii ittu oo-mɪ=gəə.
INT 今 私 どうやって する-IND.PRS.1sg=gəə
「あら、今私はどうすればよいだろうか。」

② =da 肯定のモダリティを表す。

- (3) ta-laa aja=l=da.
そこ-LOC 良い=FOC=da
「そこは良い。」

③ =baa 肯定のモダリティを表す。

- (4) əri boga bi-kki-wi taččil-nɪ amɪdara-ra
この 場所 いる-COND.CVB-REFL 彼ら-GEN 生活する-IPFV.PTCP
boga-nɪ=bāa.
場所-POSS.3=bāa
「ここは彼らの生活する場所だろう。」

④ =jA 不確定のモダリティを表す。

- (5) axa oo-ron=joo.
兄 なる-IND.PRS.3=jA
「兄になるのだ。」

⑤ =xUn⁷ 強調のモダリティを表す。

- (6) bii šin-du jɪŋjɪ-jɪ-m=xon .
私 君-DAT 言う-PROG-IND.PRS.1SG=xUn
「私は君に話しているのだ。」

⁶ =gəə, =da, =ba にはそれぞれ=gəə, =daa, =baa という異形態があるが、本稿では、=gəə, =da, =baa に統一する。

⁷ =xUn には=xon, =xun, =kon, =kun の異形態がある。

- (7) əɾə-ni doo-lo-n oʃɪr bi-sin=xun.
 これ-GEN 中-LOC-POSS.3 問題 ある-IND.PRS.3=xUn
 「この中に問題があるのだ。」

⑥ =xA⁸ 説明のモダリティを表す。

- (8) ai, bii əjəsun-du əmun-kəd əruu-i ə-suu
 INT 私 PN-DAT 一つ-CUM 悪い-INDF.ACC NEG-IND.PST.1SG
 oo-r=xəə.
 する-IPFV.PTCP=xA
 「ああ、私はエジェソンに一つも悪いことをしなかったよ。」

- (9) juldəə-du-wi naan ilan dewter bitəgə-i nəə-tən bi-ji-rən=xəə.
 前-DAT-REFL また 三冊 本-INDF.ACC 置く-SIM.CVB いる-PROG-IND.PRS.3=xA
 「前に三冊の本が置いてあるね。」

⑦ =bikkə 話者にとっての不明瞭さ、或いは反語の意味を表す。

- (10) joodon tari-wa duttə-sə=bikkə.
 どうして 彼-ACC 殴る-PFV.PTCP=bikkə
 「どうして彼を殴ったっけ。」

- (11) joodon ə-jiguu saa-r=bikkə.
 どうして NEG-IND.FUT.1SG 知る-IPFV.PTCP=bikkə
 「どうして (私は) 知らないのか。(私はもちろん知っている)」

1.1.2. 疑問語気詞

① =gii 主に名詞類 (名詞・代詞・数詞・量詞の総称) で終わる文につく。

- (12) əri əxur aja=gii.
 この 牛 良い=gii
 「この牛は良いですか。」

- (13) sii xʊni-sɪ=gii.
 君 羊-PROP=gii
 「君は羊を持っているのか。」

⁸ =xA は母音調和により=xa と=xə の異形態がある。また、基本的に子音末尾の語に後続する場合 =kA という異形態があり、話者によって母音が長母音になる場合もある。本稿では、これらを =xA で代表させる。

② =gUU 主に動詞で終わる文につく。動詞末尾の母音は uu/uu に同化する。

- (14) bii buu-mu=guu, əsi-mu=guu.
私 あげる-IND.PRS.1SG=gUU NEG-IND.PRS.1SG=gUU
「私はあげるか、あげないか。」

1.1.3. いくつかのモダリティを表す語気詞 =jəmə

① 平叙文につく場合、進行中の意味を表す。

- (15) xoleen əggigi-ji-nə gətə-mi məndisi-ji-r=jəmə.
蛇 下-INS-3 睨む-IPFV.CVB 見る-PROG-IPFV.PTCP=jəmə
「蛇は下から見つめているのだ。」

② 疑問文につく場合、モダリティを強める。

- (16) miti-nii aba-ti ittu oo-ji-r=jəmə.
私たち.INCL-GEN 父-POSS.INCL.1PL どう なる-PROG-IPFV.PTCP=jəmə
「私たちの父はどうなっているのか。」

③ 感嘆文につく場合、褒めたたえる意味を表す。

- (17) innəgən nandaxan xoton=jəmə.
どんなに きれい 町=jəmə
「なんて美しい街なんだろう。」

語気詞に関して胡・朝克 (1986: 106) は次のように説明している。

話し手は、自分の言っていることに異なるモーダルを持たせるために、語気詞を使うことがよくある。ソロン語の語気詞は平叙文や疑問文によく使われる。また、同じ語気詞でも、異なるモーダルを表す文の中で、異なる意味を伝えることもある。 (胡・朝克 1986: 106)

胡・朝克 (1986) によるソロン語の語気詞に関する記述を以下の表 1 にまとめる。

表 1: 胡・朝克 (1986) の小詞と語気詞に関する記述

胡・朝克 (1986) の分類	形式	胡・朝克 (1986) による前接要素	胡・朝克 (1986) の説明
語気詞	叙述	/	=gəə
			=dA
			=baa
			=jAA
			=xUn
			=xA
			=bikkə

	疑問	=gII	名詞類が好ましい	
		=gUU	動詞句	
	その他	=jəmə	叙述文	進行中
			疑問文	モダリティを強める
			感嘆文	ほめたたえる

1.2. 風間 (2010)

風間 (2010) はソロン語の文法及び語彙の面におけるモンゴル語からの影響について書いたものであり、付属語に関する記述がある。以下にそれを取り上げる。

1.2.1. =l

風間 (2010: 173) は付属語 =l について「「～だけ、～ばかり」のような意味を実現しているが、他にもいろいろな機能を持っているものと考えられる」と述べている。

- (18) *minu-wə=l isi-xə.*
私-ACC=l 見る-IMP.2SG
「私だけを見て。」

- (19) *sii uxun guŋkən minu-wə mändi-čči=l bi-si-nde.*
君 何 と 私-ACC 睨む-PFV.PTCP=l いる-IND.PRS-2SG
「あなたはなぜ私のことをずっと見ているのか。」 (風間 2010: 172)

1.2.2. =jəmə⁹

風間(2010: 173) は=jəmə について「日本語の「のだ」に似た機能を示していることがわかる。疑問文並びに感嘆文の例を二つずつ示したが、どの例も疑問詞を含んでいる点が注目される。すなわち、疑問詞とともに用いられるという特徴を持っている可能性がある」と述べている。

- (20) *talaa uxun guggəl-ji-r=jəməə.*
あそこ 何 動く-PROG-IPFV.PTCP=jəmə
「あそこで何が動いているのか。」

- (21) *uitxəən doo oondri-čči xəəsələə-ji-r=jəməə.*
ウイトゥフン 川 どんな-PFV.PTCP 泡立つ-PROG-IPFV.PTCP=jəmə
「ウイトゥフン川はなんでこんなに泡立っているんだろうか？」

⁹ =jəmə は =jəməə, =jəm という異形態がある。本稿では、これらを =jəmə で代表させる。

(22) sii ittoo-soo bəj=jəəm, alaasi-čči alaasi-čči aasin.
 君 どうする-PFV.PTCP 人=jəmə 待つ-PFV.CVB 待つ-PFV.CVB いない
 「あなたはどのような人なの、待っても待っても来ないじゃない。」

(23) oondii arukkun muu-si doo=jəməə.
 どんな 清潔 水-PROP 川=jəmə
 「なんてきれいな水の川なんだろう。」 (風間 2010: 173)

1.2.3. =sitə

風間 (2010: 173-174) は、モンゴル語と比較して、これが「ハルハ方言などでよく観察される終助詞の連続 *siü de* に対応するものではないかという (ジンガン p.c.)」と述べている。

(24) mittə xokko-ju adii bəj? gəə əmun bəi, juur bəi, ilan bəi,
 私たち 皆-INS いくつ 人 gəə 一 人 二 人 三 人
 digin bəi, tuŋ bəi, gəə, tuŋ ular=sitə.
 四 人 五 人 gəə 五 人たち=sitə
 「私たち皆で何人? ええと、一人、二人、三人、四人、五人、ああ、五人だね。」
 (風間 2010: 173)

1.2.4. =nəgən =sinjə =ba

風間 (2010: 174) は =nəgən について「モンゴル語の *nige-n* 「ひとつの、同様の」に由来するものかもしれない。ただしモンゴル語では比況「~のような」を示すには *sig* が用いられる。*ənnəgən* 「こんな」, *tannagan* 「あんな」もおそらく *ər=nəgən*, *tar=nəgən* に由来するものと考えられる (エウエンキー語では *targačin*, *ərgačin* で, =*gačin* (<*kačin*) はツングース祖語に遡る要素と考えられる)」と述べている。

(25) əjjəə urəl bi-kki, mojuo=nəgən bəjə-w
 この 子供 ある-COND.CVB 猿=nəgən 人-ACC
 amlaa-čči bi-sin=kun.
 真似する-PFV.CVB ある-IND.PRS.3=xUn
 「この子供ったら、サルみたいに人のことを真似してばかりいる。」

風間 (2010: 174) は =sinjə について「コンピュータのように機能するが、これは漢語の「性質 *xing4zhi4*」に由来するものらしく、モンゴル語では *sinji tei* で「~のようだ」のような意を実現する」と述べ、 =ba については「漢語起源 (「(吧 *ba*) である」と述べている。

(26) aal-xad bəjə-nii əruu-wə-n isi-m atxaasi-r bəjə=sinjə.
 いつ-CUM 人-GEN 悪い-ACC-POSS.3 見る-IPFV.CVB 笑う-IPFV.PTCP 人=sinjə
 「(あの人は) いつも人の悪いところを見て馬鹿にする人だ。」

(27) sii amlto=ba !

君 眠い=ba

「あなたはまだ眠いんだろう。」

(風間 2010: 174)

1.3. 先行研究の問題点

先行研究について、以下のような問題点が指摘できる。

終助詞という範疇は、従来のソロン語研究に使われていない。先行研究で語気詞 (胡・朝克 (1986)、朝克 (1995)) 及び付属語 (風間 (2010)) とされるものの内、文末のみに出現し、文を終わらせる機能を持つものがある。したがって、本稿では「終助詞」という範疇を使い、その分類・体系化を試みる。従来のソロン語研究は個々の語気詞の意味・用法を記述する段階に留まっており、その記述は詳しくなく、終助詞の前接要素による意味・用法の違いを記述していない。さらに、その分類・体系化は不十分である。

2. 終助詞の定義

筆者は、ジンガン (2010) のモンゴル語における終助詞の定義の一部がソロン語の終助詞定義において適切であると考え、それに倣い、以下のようにソロン語の終助詞を設定する。

I 形式的特徴

- ① 文の述部のみに出現する。
- ② 文中のほかの要素に依存せず、ほかの要素の後続なしに単独で文を終了させる力がある。

II 機能の面では、話し手の命題に対する判断、評価など心的態度を聞き手に伝える際に、その判断や評価などへの聞き手の認識を促すための副次的心的態度をマークする。

3. 調査方法

本節では前に挙げた定義に則り、先行研究で言う「語気詞」から終助詞を抽出し、分析する。

具体的には、簡易コーパスから各々の接語を検索し、述語の後ろに現れるものを分析して終助詞と認定する。次に、これらの終助詞の具体例を観察し、意味用法を整理する。

胡・朝克 (1986) において「語気詞」として扱われている =bikkiwi が存在動詞 bi- の条件形に再帰接辞を後続したものであり、=bikkə が存在動詞 bi- の二人称命令形 +=gəə が一語化したものと考え、独立性が高い語なので、存在動詞 bi- のほかの用法と考え、今回は扱わない。付属語 =xUn, =gəə, =baa は文末に現れる場合もあれば、主語に付く例もあったため、終助詞と考えない。

したがって、先行研究に示されたたソロン語の「語気詞」と「付属語」の内、終助詞と考えられるものは =daa, =jA, =A, =gII, =gUU, =jəmə, =sitə, =gəə になる。この内、今回の考察の対象は =gəə, =daa, =sitə, =xA, =jA に絞ることとする。

コーパス情報

風間・トヤー (2008)、風間 (2018b)、風間 (2020)、風間 (2022) はソロン語母語話者にソロンの文化、生活、民話、伝説を語ってもらい、それを著者が音素表記で記述し、日本語で逐語訳を付したものである。筆者はこれらのテキストを併せて簡易コーパス (単語数約 4 万 7 千) を作り、今回の調査に用いた。

4. 調査結果と分析

簡易コーパスにおけるソロン語の終助詞の出現頻度は以下の表 3 の通りであった。本節ではソロン語の終助詞を他の終助詞に後続できるものと他の終助詞に後続できないものの 2 つに分けて述べる。

表 3: ソロン語の終助詞と出現頻度

順番	終助詞の形態	出現頻度
1	=sitə	242
2	=gəə	205
3	=dA	156
4	=xA	56
5	=jA	49

4.1. 他の終助詞に後続できるもの

4.1.1. 終助詞 =gəə

4.1.1.1. 希求命令文に後続する場合

希求命令文に=gəə が後続する構文が観察された。それらの内、一人称単数希求・命令形の動詞に終助詞 =gəə がつく構文もある。筆者の内省では、このような構文 (28 a) は、単純な希求・命令形の動詞で終わる構文 (28 b) より、「試行」の意味が含まれると考える。つまり、例文 (28 a) は「ソロンについて話をしてみよう」のような意味を表す。動詞が二人称希求・命令形の *ʒɪŋʒi-xa gəə* の場合は、「(君が) 話してみて」の意味を表す。

(28) a. *baxʃi-nii xarɪʊ-du əwəŋkə-nii ʒarɪn əmun asxʊn jəəm-ii*
 先生-GEN 答え-DAT ソロン-GEN ため 一つ 少し もの-INDF.ACC
ʒɪŋʒi-gad=gəə.
 言う-IMP.1SG=gəə.

「先生への答えとして、ソロンについて少しばかりのことを話してあげよう。」

(風間 2020: 337)

b. *baxʃi-nii xarɪʊ-du əwəŋkə-nii ʒarɪn əmun asxʊn jəəm-ii*
 先生-GEN 答え-DAT ソロン-GEN ため 一つ 少し もの-INDF.ACC
ʒɪŋʒi-gad.
 言う-IMP.1SG.

「先生への答えとして、ソロンについて少しばかりのことを話す。」

(例文 (28 a) に基づき筆者作例)

4.1.1.2. 疑問文に後続する場合

4.1.1.2.1. 肯否疑問文+gəə

テキストは物語や昔話のことを母語話者に語ってもらったものであるため、会話で頻出する構文はほとんど観察されなかった。しかし、筆者の内省では、(29 a) は単純に「君は自分の馬を放したか」を表す一般疑問文だが、(29 b) のように一般疑問文に =gəə が後続すると、話者が聞き手に対して動詞の表す動作・行為を聞き手が行ったことに対して「がっかりした」意味、或いは「そうして欲しくない」という意味を含んでいると考える。

(29) a. morim-bi tiin-čəə-si=gii.

馬-REFL 放す-PFV.PTCP-2SG=gii

「自分の馬を放したのか。」

b. morim-bi tiin-čəə-si=gii=gəə.

馬-REFL 放す-PFV.PTCP-2SG=gii=gəə

「(私は乗りたかったのに) 自分の馬を放したのか。」

(筆者作例)

ソロン語では、以下の構文のような形式で、否定疑問文で相手に自分の話していることを強調する場合がある。その中には、話している事の主人公を聞き手に置き換えて、相手に対する二人称文で表すケースもよくある。これは話し手の、自分の話の確信度を高めるためだと考えられる。

(30) turu-wi tajjaa uxun-tixi ə-səə-si juu-gu-r=gii=gəə.

トロー-REFL あの 何-ABL NEG-PFV.PTCP-2SG 出す-CAUS-IPFV.PTCP=gii=gəə

「トロー (チャーマンの道具) をあのあれから出したんじゃないか。」

(風間 2020: 347)

(31) awu-nim mandu bi-ji-rən gun-čəə=si tajjaa-du-n

だれ-POSS.3 すごい いる-PROG-IND.PRS.3 という-PFV.PTCP=TOP それ-DAT-3

ə-jigəə juu-r=gii=gəə.

NEG-IND.FUT.3 出る-IPFV.PTCP=gii=gəə

「誰が優れているのかはそこに現れるんじゃないか (筆者訳)。」 (風間 2020: 346)

(32) tajjaa əmun juur turu tol-saa əntu=gii=gəə.

その 一つ 二つ トロー 支える-PFV.PTCP NEG.COP=gii=gəə

「その二つのトローで支えたんじゃないか。」

(風間 2020: 347)

筆者の考えでは、以上のような「否定疑問文+=gəə」は話し手が自分の話を聞き手に「納

- (34) toočči tajjaa nanda-ji uxun-taxan oo-r=jum=da.
 そうして その 革-INS 何-PL 作る-IPFV.PTCP=jum=da
 「そうしてその革で何を作るだろうか。」 (風間 2020: 214)
 単純に動詞の過去形に付属する場合、話者の昔のことに関して積極的に語る意味を表す。

- (35) uril bas jənu-si bi-səə=da.
 子供 も 面白い-PROP いる-PFV.PTCP=da
 「子供も面白かったよ。」 (風間 2018b: 117)

動詞の現在形に後続する場合、話者の命題内容に関して「確信」している意味を含む。例文 (36 a) は動作主が絶対来ると話し手が思った時にする発話である。終助詞 =da が付かない (36 b) は単純に聞き手に情報を伝達している意味を表す。

- (36) a. tari əduu əmə-rən=da.
 彼 ここに 来る-IND.PRS.3=da
 「彼は(絶対)ここにくるんだ。」
 b. tari əduu əmə-rən.
 彼 ここに 来る-IND.PRS.3
 「彼はここにくる。」 (筆者作例)

例文 (37) のように、接語 =xUn に後続する場合、命題内容を客観的に受け入れてほしいという、聞き手に対する話し手の期待感を表す。

- (37) ili-saa-ji gətti-čči bu-sə naan bi-sin=kun=da.
 立つ-PFV.PTCP-INS 凍える-PFV.CVB 死ぬ-PFV.PTCP も いる-IND.PRS.3=xUn=da
 「立ったまま凍えて死んだのもいるよ。」 (風間 2020: 208)

例文 (38) のように、選択疑問文に後続する場合、「話者の答えを知りたい気持ちを強める」ニュアンスがあると考えられる。

- (38) tuulgə-w anna-r bi-səə=jəmə=guu ə-səə=jəmu=guu=da.
 狼-ACC 捕る-IPFV.PTCP いる-PFV.PTCP=jəmə=guu NEG-PFV.PTCP=jəmə=guu=da
 「狼を狩っていたのか、しなかったのか。」 (筆者作例)

疑問文に付属する場合、「話者の確信度が低い」ことを表す。例文 (39) は話し手が、動作主が来たか、来てないかに対して、そのことは分からないが、来ていない可能性が高いと思う場合の発話である。

(39) əmə-səə bi-ʃigəə=gii=da
 来る-PFV.PTCP いる-IND.FUT.3=Q=da
 「来ているかなあ。」

(筆者作例)

4.2. 他の終助詞に後続できないもの

4.2.1. 終助詞 =sitə

表 5: 終助詞 =sitə のホストと出現頻度

語類	形式	出現頻度
動詞	定動詞過去時制	57
	定動詞非過去時制	64
名詞類		121
合計		242

観察された終助詞 =sitə の例文はすべて平叙文であった。ホストは名詞類もあれば動詞もあった。コーパス内のテキストはすべて、ソロンの生活や文化を著者に説明したものであり、例文はすべて「説明」の方の意味を表すが、筆者の内省では、話者が独り言を言う場合には「客観的に、消極的に命題内容を受け入れる」の意味を表すと考えられる。

4.2.1.1. 「説明」を表す=sitə

清格尔泰 (1991:451) によるとモンゴル語の語気詞 *šidə* は「肯定のモダリティを表し、客観的に、消極的に受け入れる」という意味を表すと述べ、*šiu da* は「肯定のモダリティを表し、積極的に相手に説明する」という意味を表すと述べている。ソロン語の =sitə は、モンゴル語の *šidə* を借用したものと考えられるが、モンゴル語の *šidə* と同じ意味を表す以外に、*šiu da* に近い意味、すなわち日本語の「つまり...だ」にあたる意味を表す場合もあると考えられる。

コーパス内のテキストはすべて、ソロンの生活や文化を著者に説明したものである。例文 (40) のような聞き手に「説明」する例文が圧倒的に多かった。例文 (40) では、話者があるオヴォー¹¹の由来に関して語って、「こういう理由でこのオヴォーを祭るようになった」という自分の話している内容を確信しており、聞き手に説明していることを表す。この場合、若干「軽蔑」のニュアンスを含む。

(40) toočči əjjəə owoo taxi-r oo-soo=sitə.
 そうして この オヴォー 祭る-IPFV.PTCP なる-IND.PST.3=sitə
 「そしてこのオヴォーを祭るようになったのだ。」 (風間 2018b: 134)

¹¹ 古くからの土地神を祀る石積みである。

4.2.1.2. 「受け入れる」意味を表す=sitə

筆者の内省では、終助詞 =sitə は話者がある情報を得て命題内容に対して「客観的に、消極的に受け入れる」という意味を表す。以下に協力者の作例を提示する。例文 (41) は、話し手が動作主の「家に帰った」という情報を得てからの発話である。例文 (42) は、話し手が最初、道に止まっている車を見て自分の車であるということに気づかずに、近づいてみたら自分の車にしかない印や飾りがあるのを見て、自分の車だと気づいた時の話し手の発話である。

(41) tari juu-di-wi nənuu-sə=sitə
 彼 家-DAT-REFL 帰る-PFV.PTCP=sitə
 「(なるほど)彼は自分の家に帰ったんだ。」 (協力者作例)

(42) əjjəə=si minii təggən=sitə.
 これ=TOP 私.GEN 車=sitə
 「これは私の車なんだ。」 (協力者作例)

4.2.1.3. 「確認」を表す=sitə

筆者の内省では、イントネーションによって、終助詞 =sitə は聞き手に話している内容に関して「確認」する意味を表すことができると考える。例 (43) の場合、=sitə のイントネーションは前の taxɪ-ji-r と同じである、もしくは低い場合、話し手が聞き手に「ある行為は火の神を祭っている」ことを「説明」している意味を表す。終助詞 =sitə のイントネーションが高い場合、話し手の相手から聞いた内容を「確認」していることを表すと考えられる。

(43) gal bukkom-br taxɪ-ji-ran=sitə.
 火 神-REFL 祭る-PROG-IND.PRS.3=sitə
 「自分の火の神を祭っているのだ。」 (風間 2018b: 113)

4.2.2. 終助詞 =xA

表 6: 終助詞 =xA のホストと出現頻度

直前語の品詞カテゴリー	直前の品詞詳細	共起頻度	割合
動詞類	定動詞過去時制	22	41.5%
	定動詞現在時制	17	32.1%
	定動詞過去習慣	13	24.5%
名詞類	形容詞	1	1.9%
合計		53	100.0%

終助詞 =xA が動詞の過去習慣形に付属する場合、このような構文では基本的に、話者が過去の出来事に関して確信し、説明する場合の発話となる。

- (44) ir-si jəəmə-ji ɔkkʊʊ-kki togo bukkʊn oolo-ron
 刃-PROP 物-INS 混ぜる-COND.CVB 火 神 驚く-IND.PRS.3
 guŋ-kisi=xə.
 という-IND.HAB.PST=xA
 「刃物で混ぜたら、火の神が驚くと言っていたのだ。」 (風間 2020: 373)

終助詞 =xə が動詞の現在時制形に付属する場合、話者が過去のことについて語り、動作主がある行為を行い、その行為に対する話者の意外な気持ちを含む場合がある。

- (45) dʊr-sɪl bæi xokko jitt(ə)-rən=kəə.
 好き-PROP=FOC 人 皆 食べる-IND.PRS.3=xA
 「好きな人は皆食べたのだ。」 (風間 2018b: 35)

4.2.3. 終助詞 =jA

表 7: 終助詞 =jA のホストと出現頻度

直前語の品詞カテゴリー	直前の品詞詳細	共起頻度	割合
動詞類	定動詞現在時制	26	72.2%
	動詞接辞 -kkə	9	25.0%
名詞類	名詞 jəəm	1	2.8%
合計		36	100.0%

終助詞 =jA のホストは今回の観察によると 36 例の内、35 例が動詞であり、1 例が名詞類だった。

終助詞 =jA は、例文 (46) のように、定動詞直説法に後続することが一番多い。この場合、日本語の「のだ」のように「事情説明」の用法となる。

- (46) uxur-nii nanda-wa uxun-ji munə-gəə-ji-rən=jə.
 牛-GEN 革-ACC 牛乳-INS 腐る-CAUS-PROG-IND.PRS.3=jA
 「牛の革を牛乳で腐らせる。」 (風間 2018b: 212) (1)の再掲

例文 (47) のように述語になる動詞が二人称非過去時制である場合、話し手が聞き手のある命題内容について情報を把握していると考えた「推量」の意味を表す。例文 (47) では話し手は聞き手が「バドマーのお祖父さんの、ウンドゥー兄さんという人」を知っていると考え、聞き手に言った発話である。

- (47) badmaa-nii jəəjəə-nii-nə, wəndəə axaa guŋkən saa-ndi=jə.
 PN-GEN 祖父-GEN-3 PN 兄 と 知る-IND.PRS.2SG=jA
 「バドマーのお祖父さんの、ウンドゥー兄さんという(人)を知っているだろ。」

(風間 2018b: 175)

協力者によると以下の構文 (48) が可能である。この文は終助詞=jA を二人称非過去時制直説法に後続させている。インフォーマントによるとこの構文は「相手が話し手に自分がどこかに行きたいと言い、話し手は軽く面倒がっている感じがする」という。

(48) ninə-m guŋkən bodo-ji-kki ninə-ndə=jə.
 行く -IND.PRS.1SG と 思う -PROG-COND.CVB 行く -IND.PRS.2SG=jA
 「(君は) 行きたかったら行けば。」 (協力者作例)

例文 (49) のように動詞語幹 -kkə=jA という構造が、36 例の内、9 例観察された。筆者の内省では、このような構文は「話者の過去の事情に関して相手に伝える」という意味を表す。この接辞 -kkə について記述は管見の限り存在せず、この環境にのみ現れる可能性が高い。これについては今後さらに考察する必要がある。

(49) jaan čagdaa-sal-a-w əməkkən morm ugu-čči soolxosi bi-kkə=jəə.
 十 警察-PL-E-ACC 一人 馬 乗る -PFV.PTCP 騒ぐ いる -kkə=jA
 「十人の警察に対してたった一人で馬に乗って、騒ぎを起こしていたそうだよ。」
 (風間 2018b: 373)

5. まとめと今後の課題

本稿では、ソロン語における終助詞 =sitə, =gəə, =da, =xA, =jA についてその前接要素の違いによる意味・機能の分析を行った。ここでもう一度まとめると、以下の通りである。

終助詞 =sitə 名詞類述語、定動詞述語に後続する。その主な機能は命題内容によって述べられている事柄を聞き手に「説明」すること、及び「確認」することである。独り言を言う場合、「受け入れる」意味を表す。

終助詞 =gəə は定動詞希求・命令法に後続しうる。なお、疑問終助詞 =gii に後続する。前置の要素により、終助詞 =gəə は試行、相手に対する「がっかり」の気持ち、自問自答の意味・機能がある。

終助詞 =da は定動詞直説法の現在時制形と過去時制形、名詞述語、形容詞述語、接語に後続する。終助詞 =gii, =guu, =jəmə にも後続しうる。前置の要素により、積極的に語る、話し手の命題内容に対する確信、命題内容を聞き手に受け入れてほしい話し手の気持ち、情報を得たい気持ちを強める、懐疑の意味・機能がある。

終助詞 =xA は主に定動詞直説法に後続する。形容詞に後続する構文も観察されたが、一例のみである。その主な機能は「説明」である。

終助詞 =jA は主に定動詞直説法現在時制形に後続する。また、記述されていない動詞接辞 -kkə (一人称の場合は -kku) と後続する。その主な機能は、モンゴル語由来の =sitə の意味に近く、命題内容によって述べられている事柄を聞き手に「説明」することである。

本稿の調査結果を以下の表 7 にまとめる。

表 7: ソロン語の終助詞の意味

終助詞の分類	形態	条件	意味・機能
他の終助詞に後続できるもの	=gəə	希求命令文に後続する	試行
		肯否疑問文に後続する	相手に対する「がっかり」の気持ち
		WH 疑問文に後続する	自問自答
	=da	直説法過去時制の動詞述語に後続する	積極的に語る
		直説法現在時制の動詞述語に後続する	話し手の命題内容に対する確信
		接語=xUn に後続する	命題内容を聞き手に受け入れてほしい話し手の気持ち
		選択疑問文に後続する	情報を得たい気持ちを強める
肯否疑問文に後続する	懐疑		
他の終助詞に後続できないもの	=sitə	平叙文、イントネーションが低い、或いは平たい	説明
		平叙文、イントネーションが高い	確認
		独り言	受け入れる
	=xA	直説法過去習慣形の動詞述語に後続する	確信説明
		直説法現在時制動詞述語に後続する	命題内容に対する意外性
	=jA	定動詞直説法に後続する	事情説明
		直説法現在時制二人称動詞述語に後続する	推量
		V -kkə に後続する	情報伝達
直説法現在時制二人称動作動詞述語に後続する		相手に対する不満	

今回の調査分析に通じてソロン語の終助詞に関してある程度考察できたが、まだ以下の課題が残っている。

今回の調査対象は先行研究で述べられている接語から抽出したものである。他の記述されていないものがあるかを確認する必要がある。

=gii, =gUU, =jəmə を今回分析できなかったので、今後の課題とする。

略語一覧

-: suffix boundary 接辞境界	INS: instrumental 道具格
=: clitic boundary 接語境界	INT: interjection 間投詞
1, 2, 3: 1st, 2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称	IPFV: imperfective 非完了
ABL: ablative 奪格	LOC: locative 処格
ACC: accusative (定) 対格	NEG: negative 否定
CAUS: causative 使役	PL: plural 複数
CVB: converb 副動詞	PN: personal noun 固有名詞
COND: conditional 条件	POSS: possessive 所有
CUM: cumulative 累加	PROG: progressive 進行
DAT: dative 与格	PROP: propriative 恒常的所有
E: epenthesis 挿入音	PRS: present 現在
FOC: focus 焦点化	PST: past 過去
FUT: future 未来	PTCP: participle 形動詞
GEN: genitive 属格	Q: interrogative marker 疑問
HAB: habitual 習慣	REFL: reflexive 再帰
IMP: imperative 命令	SIM: simultaneous 同時
INCL: inclusive 包括形	SG: singular 単数
IND: indicative 直說法	TOP: topicalization 主題化
INDF: indefinite 不定	

参考文献

- Baek, S. (2023) "Solon". A. Vovin, J. A. Alonso de la Fuente, & J. Janhunen (eds.) *The Tungusic Languages*. (Routledge Language Family Series). pp. 206-223. New York: Routledge.
- 朝克 (1995)『鄂温克语研究』北京：民族出版社。
- 胡增益・朝克 (共著) (1986)『鄂温克语简志』北京：民族出版社。
- 胡增益 (1986)『鄂伦春语简志』北京：民族出版社。
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編著) (1995)『言語学大辞典 第6巻 術語編』953-954 東京：三省堂。
- ジンガン (2010)『モンゴル語のモダリティ：コーパスに基づく記述的研究』東京外国語大学 博士論文。
- 長屋尚典 (2015)「接語」斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編)『明解言語学辞典』133. 東京：三省堂。
- 風間伸次郎 (2010)「ソロン語におけるモンゴル語の影響—言語接触の一例として—」『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座— 語学教育フォーラム』24: 163-183. 東京：大東文化大学語学教育研究所。
- 風間伸次郎 (2018a)「ソロン語」李林静・山越康裕・児倉徳和 (編著)『中国北方危機言語の

ドキュメンテーション』101-159. 東京：三元社.
清格尔泰 (1991) 『蒙古语语法』 呼和浩特市：内蒙古人民出版社.

調査資料

- 風間伸次郎・トヤー (2007) 『ソロンの民話と伝説 1』 (ツングース言語文化論集 37.) 札幌：北海道大学.
風間伸次郎・トヤー (2008) 『ソロンの民話と伝説 2』 (ツングース言語文化論集 41.) 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
風間伸次郎 (2018b) 『ソロンの文化と生活 1』 (ツングース言語文化論集 64.) 府中：東京外国語大学.
風間伸次郎 (2020) 『ソロンの文化と生活 2』 (ツングース言語文化論集 67.) 府中：東京外国語大学.
風間伸次郎 (2022) 『ソロンの文化と生活 3』 (ツングース言語文化論集 70.) 府中：東京外国語大学.

Sentence-Final Particles in Solon

BAIGALA

(Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords: Solon, descriptive linguistics, sentence-final particles

The present study aims to examine the meanings and functions of the sentence-final particles (SFPs) in Solon. The SFPs discussed in this paper are defined as clitics that are placed at the end of sentences and give various modal meanings to the predicative content of the sentence. Previous research on Solon SFPs is not abundant. The purpose of this paper is to identify the categories of SFPs in Solon and to discuss their usages. Specifically, I search a simple corpus for particles such as =gəə, =daa, =baa, =jA, =xUn, =xA, =bikkə, =gII, =gUU, =l, =jəmə, =sitə, =nəgən, =sinjə and analyze those that appear only at the end of sentences to identify them as SFPs such as =sitə, =gəə, =da, =xA, =jA. Next, I observe concrete examples of these SFPs and categorize them in terms of their semantic usages.

(バイカル dularbaikal@gmail.com)